

DOYOU

さいたま

同友会3つの目的 / 良い会社 良い経営者 良い経営環境をめざす



合格通り司法書士事務所(川口地区会)

坂本 武蔵

SAKAMOTO MUSASHI

JR西川口駅東口にある「合格通り司法書士事務所」。この一風変わった名前の事務所は、「合格通り」と呼ばれる商店街の名前に由来します。所長の坂本さんは、川口地区会の幹事長を務め、青年部でも活躍する若手の司法書士。同友会と出会い、経営指針セミナーを受講することで、経営者としての自覚を持つようになったと話します。

(6Pへ続く)

埼玉の元気を創る中小企業家 - 97

権利をまもり、不安を解消し、お客様に確かな満足と笑顔を
明るく真心をこめた対応を致します
変化する時代に合った業務を行います
地域に親しまれる事務所を目指します
関わる方が希望を持つことができる事務所を作ります

2017-4 April
VOL.472 毎月1日発行

特集

第47回 中小企業問題全国研究集会 in 鹿児島
強靱な企業づくりが日本の未来を切り拓く！
～経営維新で夢あふれる中小企業 実践しよう「人を生かす経営」～

<http://www.saitama.doyu.jp>

社長の
学校

特集 第47回 中小企業問題全国研究集会 in 鹿児島

強靱な企業づくりが日本の未来を切り拓く! ～経営維新で夢あふれる中小企業 実践しよう「人を生かす経営」～



2月16～17日、鹿児島で『強靱な企業づくりが日本の未来を切り拓く～経営指針で夢あふれる中小企業 実践しよう「人を生かす経営」～』をテーマに第47回中小企業問題全国研究集会が開催され、全国から1189名、埼玉より21名の参加がありました。

1日目は会場に分かれて見学分科会を含む13分科会が行われました。「中小企業を取り巻く情勢」から「人を生かす経営の実践」、「エネルギーシフト・求人難への対応」など多様なテーマで分科会が設定され、各分科会で熱いグループ討論が行われました。分科会終了後懇親会が行われ、最初に九面太鼓が鹿児島を代表して披露されました。開催地を代表した青木英一郎・鹿児島同友会代表理事の歓迎あいさつの後、来賓が登壇し、テレビ朝日の元アナウンサー 三反園訓・鹿児島県知事が代表してあいさつしました。



2日目は、はじめに鋤柄修・中同協会会長が「現状、全国で採用難や人材不足が起きている。同友会の会員企業は若い人が来てくれる会社、また気持ちよく働ける環境づくりを作るため、全国の交流会等を通じて自社の発展に繋げよう」とあいさつし、鹿児島市長の森 博幸氏が来賓としてあいさつしました。その後、分科会の座長報告が行われ、それぞれの学びと実践への向けた提起がありました。

記念講演は窪田茂・窪田織物(株)代表取締役社長(鹿児島同友会会員)が「伝統を守り革新し続



▲記念講演講師 窪田茂氏

けるローリング型経営」をテーマに講演しました。大島紬は急速に市場がしぼみ、生産高はピーク時の3%に落ちています。そんな中、「伝統文化の着物をもっと美しく」「お客様の満足度に挑戦」「社員の幸福に貢献」の3つの経営理念を掲げ、社員と共に歩んでいる窪田氏は、着物という伝統産業を商いにも関わらず、いち早くコンピューターを導入して時代の変化を受けながらも安定経営をしています。この「ローリング経営」の考え方は従業員を大切にするという理念と共に参加者に大きな感動を与えました。

最後に広浜泰久・中同協幹事長が2日間のまとめを行い、次回の開催地である兵庫同友会にて再び集うことを約束し合って閉会しました。

～参加者の分科会報告記事をご紹介します～

第3分科会

自転車リサイクル業で世界の最先端をめざす!

～人財と共に攻めのITで新たな市場創造～

報告者:吉川日生氏(株)シーパーツ 代表取締役)
アドバイザー:阿部 新氏(山口大学 准教授)

最初にアドバイザーである山口大学准教授の阿部氏から説明がありました。自動車リサイクル業界の歴史や市場分析に始まり、市場としてはバブル期をピークとして止まっている状況であること、1988年に発覚した不法投棄問題を経て、自動車リサイクル法が2005年に施行されたが、公正市場になると当然



▲報告者の吉川氏



▲アドバイザーの阿部氏

メーカーや新規参入があり、市場は拡大しない中で競争は激化する状況であるとの内容でした。

吉川氏には4度の転換期があったと言います。一度目は平成9年に金属相場の低迷で製造業から小売業へ活路を求めていく同業他者から置いていかれ波に乗れなかったこと。同じ頃、山口同友会へ入

会します。当時、例会の報告者をつとめる機会があり、「崖っぷちにつま先で立っている状況である」と報告したと言います。

その頃、吉川氏は業界において発注から受注まで全ての取引で大量に紙を消費することに対して疑問を持っていたそうです。そして、その考え方が今後のシーパーツを発展させることになったのです。その後、貿易を学ぶためベトナム研修に行き、帰国後に知人を通して取引を始めます。翌年には香港で会社を登録し、販路を拡大しました。

二度目の転換期は平成17年、県のリサイクル企業への支援による山口工場の新設です。当初、担当者に提案をされたものの、即答できず社内へ持ち帰り幹部に相談したところ「社長についていきます」との即答に新工場設立を決断しました。当時、スリランカの現地法人で経営を任せられる適任者がいないため工場新設を断念したこともあり、「優秀な社員がより多くいれば断念せずに済んだのに」との思いを強くします。この経験が新卒採用を始めるきっかけになりました。平成23年、県の採用説明会で、ある理工学部の学生と出会い、猛アピール。スリランカでの苦い経験もあり、少しずつロボットとソフトの開発を行っていたため、どうしても入社してほしいそうです。「弊社が大卒を採用するなんて夢のような話だった」と当時を振り返る吉川氏は、今も人材への投資は惜しまないと語ります。

三度目の転換期はロボット開発とソフト開発に成功し、販売にこぎつけたことです。ソフトは様々な情報をipadで管理し分別した部品をタグ付けし、取引先を仕分け、請求書も顧客に発行できるようIoTが構築されています。この成功の根本は「ペーパーレスにしたい、人的ミスを減らしたい」という吉川氏の考えから始まったことです。

四度目の転換期は平成28年開業した千葉営業所。新卒採用した社員も中心メンバーとなっており、販路拡大の重要な拠点にする計画だそうです。全ての転換期で人との出会いが重要だったと語ります。

この分科会を選んだ理由は、弊社も人の手で一からものを作っていき営業内容で、自動車リサイクル業と共通点があり、ITを生かした仕事づくりを学びたかったからです。吉川社長はロボットを開発する時、自分が現役の時に一番辛かった事をロボット化しようと考えたそうです。「何をロボット化するか」を吉川氏が決め、社員がそれを製作します。



この分科会を選んだ理由は、弊社も人の手で一からものを作っていき営業内容で、自動車リサイクル業と共通点があり、ITを生かした仕事づくりを学びたかったからです。吉川社長はロボットを開発する

時、自分が現役の時に一番辛かった事をロボット化しようと考えたそうです。「何をロボット化するか」を吉川氏が決め、社員がそれを製作します。

グループ討論では「自社がキラリと光るために自分たちの強みをどう経営に生かすか」と「新卒採用が自社の武器になる」という議論に集中しました。一見、ITと関係のない業種が上手くつながり、成功するとキラリと光るものになる。また、グループ内に新卒採用している参加者が3人いて、「新卒者

は飲込みが早い、社内が若返り、生き生きとして会社内が活気にあふれる」などの意見がありました。ダイバーシティ経営を様々な企業が実践していく中、新卒採用が1つのきっかけになるということをぜひ弊社でも実践しようと思った分科会でした。

(むさし野地区会 遠藤雄大 記)

第5分科会

人口減少社会で中小企業が存続するために、必須の経営戦略とは？ ～価格競争から価値競争へ！自社の競争優位性をどのようにつくるか？～

報告者：田浦 通氏（株）シーライン 代表取締役社長
アドバイザー：合力知工氏（福岡大学商学部 教授）

人口が7,000名から2,500名に激減した熊本の過疎の町で育った田浦氏。19歳の時に福岡へ出て急成長を続ける全国規模の物流企業へ入社し、順調に出世していきました。そんな中、ある本との出会いが人生を変えます。「限りある人生、会社を興しませんか？」というメッセージに、「悔いのない人生とは？」と考えはじめ、更なる人生の充実を求めて29歳の時『（自分にとって）一度きりの人生をかけても惜しくない企業づくり』を掲げて独立、運送会社を創業しました。



▲報告者の田浦氏



▲アドバイザーの合力氏

しかし、創業当時は売上至上主義で、4年目にして突然社員5名が辞めてしまうという事態が。「業績が伸びているのになぜ？」と理由がわからずに悩んでいた時に同友会と出会います。経営指針セミナーに参加し、経営指針の作成に取り組む中で、「ビジョンがない。経営理念がない」と厳しい指摘を受け、「自社に今一番必要なもの」との思いで、企業の新しい風土づくりを目指し、『社員満足があってこそその顧客満足』と気付きます。

そして、社員の将来に対する会社の対応を盛り込んだ経営計画書を発表した時、社員の目の色が変わったのが判ったと言います。まさに『経営計画書は魔法の書』でした。

その後、20年間ライバルとの価格競争に明け暮れる中で、輸送単価が年々下落していることに危機感を持ちはじめた田浦氏。人口減少による経済が縮小する中、人口減少・高齢化社会に影響を受けない市場を求め、『景気に左右されない企業づくり、3割顧客（人口）がいなくなっても困らない企業づくり、差別化戦略を推進し自社の競争優位性を発揮できる独自の物流企業づくり』に取り組みます。

価格競争に晒されない独自の価値を高める努力をし、誰もが参入できる頭在市场から独自の強みを伸ばして他社の参入が難しい潜在市場への移行を目指すことに。価格競争から

脱却し、自社の潜在市場での価値を向上させ、絶対的な競争優位性を高めることに成功しました。

また、「社員が主役」と意識付け、日々の業務においても、他人が決めたことをやらされるのではなく、自身が決めたことに積極的に取り組む自立型社員を増やしていきました。人への投資を惜しまず、社員共育に取り組んだ結果、「(社員にとって)一度きりの人生を賭けても惜しくない企業づくり」に繋がっていきました。

人口減少で中小企業が存続する必須の経営戦略とは=企業はより専門性に特化し、地域からも顧客からも社員からも10年後も30年後もそれ以上も必要とされること。そのために自社の強みを強化し特徴を伸ばし、自社・自身の価値を高めていくことが不可欠。「一度きりの人生だから」と語る姿が印象的でした。

最後に、アドバイザーとして福岡大学商学部 教授 合力知工氏から補足説明がありました。「企業とはミッションとビジョン。価値競争とは付加価値の創出。上意下達より自身の意思にて行動する(must業務<can業務<will業務)ことが大事」との説明により、テーマへの理解が更に深まりました。

(浦和地区会 石神明美 記)



第11分科会

『人を生かす経営の総合実践』を 貫いたからこそ見えてきた展望 ～経営指針の成文化、共有化は経営者保証免除の第一歩～

報告者:米田順哉氏 (NPO法人 家族支援フォーラム 理事長)
アドバイザー:吉村紀行氏 (弁護士法人たいよう 代表)

第47回 中小企業問題全国研究集会は、桜島を正面に見ることのできる小高い山に建つ城山観光ホテルにて開催されました。参加した第11分科会は、「あなたは経営者保証をはずせますか」という問いかけの元、「『人を生かす経営の総合実践』を貫いたからこそ見えてきた展望～経営指針の成文化、共有化は経営者保証免除の第一歩～」と題し、愛媛同友会副専務理事 NPO法人 家族支援フォーラム 理事長 米田順哉氏に報告をいただきました。



▲報告者の米田氏

米田氏は銀行員として愛媛の地を流れ、その後2003年にNPO法人家族支援フォーラムを設立しました。このNPO法人は、障害者の幼児期から老齢期まで「人生80年」のライフサイクルに寄り添い、必要な支援を継続してコーディネートすることをコンセプトにしています。



▲アドバイザーの吉村氏

順調に伸びてきたかと思われた2010年、無計画な採用と資金調達から4期連続で赤字を出してしまいました。さらに現場を仕切る幹部社員の同時退職で、組織崩壊の危機に直面します。それを救ったのが、社員とともに成文化し共有した経営指針を軸として「人を生かす経営の実践」を行ったことで、短期間でのV字回復をなしとげました。

同時にメインバンクを変え、元銀行員という経歴から、貸す側を知り尽くした事業計画の作成と徹底的な経営状況の透明化により、4期連続赤字の法人に融資が行われ、なおかつ経営者の個人保証免除を成し遂げました。それには経営指針の成文化と社員との共有がなければできなかったことです。

・経営者保証免除のポイントは、愛媛銀行の場合、①地域に根付いた事業で社会性が高いこと。②情報開示が随時適切にでき、経営指針書や経営計画書があること。③黒字が安定的・継続的に見込めること。④法人と経営者の間に貸借などがなく、法人と個人が明確に分かれていること。⑤資金の流れが明確であること。⑥人間性・人柄を含めた経営者の経営姿勢を問う。

日本政策金融公庫の場合、①税務申告を2期以上実施し、融資取引が1年以上あり、直近一年で滞納のないこと。②直近2期において減価償却前売上高、経常利益が連続して赤字ではなく債務超過していないこと。③法人と経営者の間に貸借などがなく、とのことです。

米田氏の報告後、アドバイザーとして吉村紀行弁護士より《経営者保証に関するガイドライン》の説明があり、個人保証をなくすには、当然経営者自身が姿勢を正すこと。法人と個人の区別をきちんとつけること。事業計画や業績見通しなどを正確かつ丁寧に説明できること。経営者自身が自ら財務状況を語れること。が重要だということです。

(むさし野地区会 亀山 章 記)



障がい者とともに ～実践経営者が語る障がい者雇用～



《シリーズ 第5回》



今回取材をしたのは、創業68期を迎え従業員数は200名を超える(株)クリタエムデリカ。「麺とデリカの新しい食文化を創造する」という理念を掲げ、食品製造業としての歴史と実績を持つ会社です。先代社長から受け継ぐ古い企業風土を変革し、人が育つ仕組みづくりに全力を注ぐ栗田社長に障害者雇用の現状をお聞きました。

(株)クリタエムデリカ 代表取締役 栗田美和子氏(東京同友会)
取締役営業開発本部長 栗田裕司(東部地区会)
住所:埼玉県越谷市大澤3271 TEL:048-962-9105
業種:調理麺製造、惣菜・学校給食麺製造



▲万全の衛生管理服で取材

『日本で一番大切にしたい会社』

障害者雇用は先代の時から、地元近隣の方を中心に受け入れが始まったそうです。現在雇用者数は重度・軽度あわせて5名。今では特別支援学校の卒業生の入社もあるそうです。そんな栗田社長の本当の障害者雇用の始まりは、『日本で一番大切にしたい会社』(あさ出版)の著者 法政大学 坂本光司教授との出会いと言います。「企業が障害者を雇用できなくて何が企業か」の一言が、障害者雇用の在り方を今一度問い直すきっかけとなったそうです。「まだまだ弊社は実践と言えるレベルではなく、どうしたら彼らが自立して毎日生き生きと働くことができるのか模索している段階です」と語る栗田社長をはじめ、幹部社員の雇用への取り組み意識は高いながらも「現場レベルでは日々小さな問題が起きている」と続けます。ジョブコーチ(*)が入り、調整をはかってもらったこともあったとのこと。24時間操業で数百はある調理麺の製造とそれに携わる多くの従業員。どこの部署で彼らが活躍できるのかに常に頭を悩ませています。惣菜調理業として規模を拡大する中で、様々な方法を社員さんとともにチャレンジ中ということでした。

全社員が輝ける環境を

実際にコンテナ洗浄の現場を取材させていただくと、冬は寒く夏は暑いなか、一日中立ち働く社員さんは、取材中も黙々と作業をしていました。一つ一つ確かめながら、手早くコンテナ洗浄作業をこなす彼の時折見せる笑顔に、クリタエムデリカでのやりがいを確かに感じていように見えました。現場を案内してくれた社員の方が、「障害のある人もいきいきと働ける職場環境を作っていきたい」と語る姿勢に、全社員が輝ける職場環境づくりの実践を進めていることを改めて感じました。

また、障害者の自立を目指す栗田社長は、スポーツを通じて現在の日本の障害者に対する考え方が世界的に遅れていることを指摘します。

「世界的には、障害があっても一緒にオリンピックを応援するために渡航するのは当たり前ですが、日本ではそのような共に生きるという考えはむしろ少数派。東京パラリンピックが成功するためにも日本の現状が世界のレベルに近づくことを願っています」。

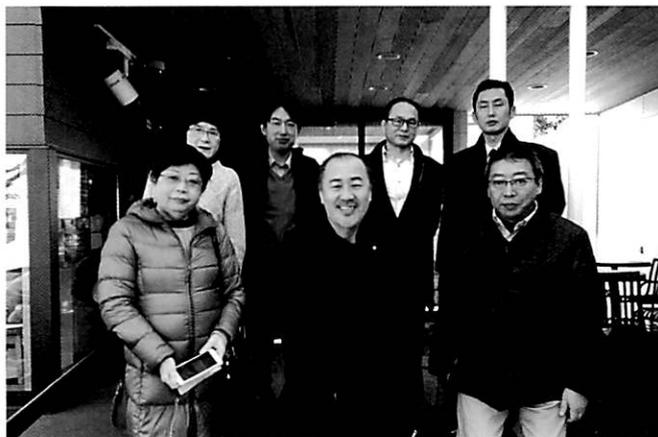
ともに歩む未来を描く

企業の障害者雇用の義務付けが法律で規定されており、法律を遵守することも確かに大事ですが、「クリタエムデリカは従業員と地域社会と障害者がともに歩む未来と一緒に描く、そういう会社に成長させたい」と栗田社長は展望します。

さらに新たな試みとして、定年を迎えたシルバー世代が元気に働ける場として《食から新しいコミュニティを創る》という理念を掲げた「シェアダイニング サルデー」というカフェを地元越谷に立ち上げました。「まだまだ課題もたくさんありますが、楽しいです」と、笑顔で語る栗田社長の生き生きとした経営姿勢がとても印象的でした。常に困難に立ち向かい、新しい挑戦を続ける栗田社長。障害者雇用が難しいとされる食品製造にあって、障害者の方々と新しいかわり方をみせるクリタエムデリカの更なる飛躍に期待します。

(東彩地区会広報委員 後藤天美 記)

*ジョブコーチ:障害者の就労に当たり、障害者が円滑に就労できるように障害特性を踏まえた直接的で専門的な支援を行う者。障害者の職場適応、定着を図ることを目的としている。



▲取材当日は東部地区会の広報委員会のベンチマークも

—— 埼玉の元気を創る 中小企業家 ——

合格通り司法書士事務所(川口地区会)

埼玉県川口市並木二丁目4番5号 第二マサキビル 202
TEL 048-235-4256 FAX 048-235-6473



「五島列島から埼玉へ」

長崎から西方約100kmの場所にある美しい島々、五島列島。坂本さんはこの島で生まれ育ちました。そんな坂本さんが埼玉県川口市で司法書士事務所を構えたのは、友人との縁と話します。

大学中退後、バイトに明け暮れていた坂本さんは、友人の紹介により埼玉で働くことに。その後九州に戻り、福岡にて司法書士試験を受験。合格率3%台の難関試験を、なんと二度目の挑戦で突破します。この難関試験を支えてくれたのは、祖父を始めとする家族でした。

司法書士試験に合格すると、再び川口で司法書士として就職します。平成23年11月には独立し、前身である坂本司法書士事務所を開業しました。その後、現在の事務所を管理している、(株)マサキ管理サービスの中村茂さん(川口地区会員)の紹介で、同友会に入会します。

「笑顔と真心」

幹事会で柴田玲さん(川口地区会員)から勧められ、経営指針セミナーを受講しました。セミナーは衝撃の連続で、自身が経営者と呼べるレベルに達していないことを身にしみて感じたといいます。

経営理念もなかなか生み出すことができず、最終的には自身が仕事をする上での原点である「笑顔」に辿りつきます。坂本さんは、コンビニでの4年間のアルバイト生活の中で、「自分と相手が幸せになる基本は笑顔であること」「笑顔のある仕事は、真心によ



▲経営指針セミナー発表会で修了証を受ける坂本氏

て生み出されること」を実感していました。そして、「明るく真心をこめた対応を致します」という経営理念の条項が生まれたのです。



「地域に根ざして」

「地域に親しまれる事務所を目指します」の経営理念から坂本さんは事務所名を「合格通り司法書士事務所」に改名します。「合格通り」とは、坂本さんの事務所のあるJR西川口駅東口の商店街で、「合格の鐘」があることから名付けられました。地域から愛される司法書士事務所を目指す坂本さんは、「合格通り」の名称を使わせてもらえないか商店会に頼んだところ、歓迎され、現在の事務所名となったのです。

時代の変化により、司法書士の仕事も大きく変化しています。顧客のニーズが多様化する現在、司法書士の業務スタイルも、迅速に対応できるよう変化が求められています。「変化する時代に合った業務を行います」という理念は、変化に対応できる柔軟な坂本さんらしさがあると思います。

「希望ある事務所に」

経営理念の作成は、坂本さんが経営者として一步を踏み出すきっかけになりました。司法書士事務所を経営する者として、「スタッフが希望をもって仕事のできる事務所にしたい」との気持ちを持つようになります。そのためには、事業の継続が必須であり、お客様との関係が続かなければなりません。税理士事務所と異なり、顧問料による定期収入がないのが司法書士事務所。坂本さんは、合格通り司法書士事務所の3カ年事業計画を作成し、定期的にスタッフの雇用を考えるようになりました。「スタッフを雇うことができたのも、経営指針に取り組んだ事で自身と事業計画を見直した事に拠るもの」と語ります。

「先生」と呼ばれる専門家は、難しい言葉を使い、サービス業であることを忘れがちです。しかし、坂本さんは、悩みを解決するのが仕事であると考え、顧客の目線に立ち、嘘偽りない仕事に打ち込みます。「単に法律論を語るだけでなく、親身になって顧客の悩みを解決する」ことが、坂本さんの強みなのです。

縁によって西川口に事務所を構え、経営指針セミナーに参加した坂本さん。1人だった事務所も、今は2名のスタッフを迎え、3名の事務所となりました。経営理念を作成したとき、最初は入れなかったという第4項の経営理念、「関わる方が希望を持つことができる事務所」に向かって、坂本さんは今日も歩き続けます。

(川口地区会広報委員 高倉光俊 記)

第16回 広報委員が行く! 東彩地区会1月例会

今回の訪問先は、現在設立2年目で、埼玉中小企業家同友会で最も若く会員増員数も大躍進中の元気いっぱいの県東部地域(越谷市・草加市・八潮市・三郷市・吉川町・松伏町等)を中心とした東彩地区会1月地区例会に伺いました。



地区会員の未来を築く例会づくり

開催日も1 / 23(月)「1・2・3! Get!!」と今年初の例会にふさわしいスタート日でした。参加者81名(地区会員22名・ゲスト19名・他地区会員29名・他県会員11名)と、会員数45名の単独地区例会でしたが、大盛況の開催となりました。開会直後の太田会長の挨拶は、共に学ぶ例会として会員の近況報告を交えた会員同士の繋がりを深める内容でした。

報告は永井義昭氏(メガワークス(株) 代表取締役)による「私と会社は同友会と経営指針に救われた!! ~どん底で見えたもの~」と題した実践報告でした。前職の営業職から異業種であるモノづくりの会社を起業したものの、「売上は伸びるが利益が伴わない」「発想と行動力はあるが計画性が乏しい」といった経営により負のスパイラルにはまり込み、同友会の仲間と相談。アドバイスを受けたことで一念発起し、経営指針セミナーを受講します。目標を明確にして努力改善(月次決算・働ける事に感謝・自己破産はしない)を行う事で、売上は減少しながら利益は伸びている業績になってきたという内容でした。永井氏の明るく前向きな人柄がとても印象的で、報告の最後に「I am 自分を直視する・I have 人と繋がる・I can 諦めずに行う・I will 目標や未来に向かって前進する」という言葉には身が引き締められました。

大いに語り・学び・つながる

グループ討論では東彩地区の会員だけではなく、他地区・他県の会員、金融関係・行政の方々など、多岐に渡る参加者との話し合いはとても良い学びになりました。



例会全体を通して感じられた事は、設営がとてもスムーズで、太田会長の開会挨拶は参加者の意識を高めるとともに、報告者の報告もその内容だけでなく醸し出す雰囲気も好印象を受けました。十分な打合せと準備を行ったことと思いますが、報告者と地区会担当者の抜群のコンビネーションが感じられる見事な例会でした!

その後は、もちろん(!)懇親会にも参加させていただきました。こちらは大盛況で、最初はグループごとの着席でしたが、懇親が深まるにつれて話題も多彩に盛り上がり、業種や県の垣根を越えた経営者が大いに語り、大いに学び、互いに知り合う大懇親会でした。

今回は取材として参加したのですが、同友会の会員としてこのような例会に参加できた事に感謝するとともに、わが地区会でも大いに刺激を受けました。

地区会運営がはじまって、丸2年がたとうしている東彩地区会。私は設立総会にも参加し、新しい地区会としての清々さと勢いを感じたのを覚えています。その勢いは変わっていません。地区会としての団結力と自己変革・自己改革を常に例会から模索しようとする真摯な姿勢や、得た学びや気づきを同友会の仲間や自社と共有しようとする意識が皆さん高いなということ、改めて感じました。例会にゲスト参加された方が、次の瞬間会員になっていたという話にも、素直に頷けます。「この場所で経営者として学びたい」と自ら自然に思われるのでしょうか。私も本日参加して得られた気づきを、自身の地区会や自社に持ち帰り、事業に、同友会活動に邁進していきたいと思えます。

太田会長をはじめとした東彩地区の皆さん、すべての参加者の皆さん、多くの学びと元気をありがとうございました。

(大宮中央地区会広報委員 鈴木光義 記)



気付けば癒されている



さくら地区会

(株) 武蔵野ユニフォーム

小松 和弘

埼玉県行田市藤原町 2-7-7

TEL : 048-554-7325

<http://www.musashinouniform.co.jp>



■日本文化が集結

「なぜ、お茶を始めたのですか?」

私が、茶道を嗜んでいますとお話すると、必ず聞かれる質問です。あるとき、「日本の様々な文化を勉強してみたい!」と思ったことがありました。書、花、器、香、食。さまざまな「〇〇道」が集結しているのが茶道でした。茶室の床の間には、掛け軸(書道)が掛けられ、季節の花が活けてあります(華道)。抹茶を飲む茶碗の焼き物もありますし、点前の中には、お香(香道)が組み込まれたものもあります。そして、お茶に付き物の懐石料理や菓子をいただく食文化。これら全てに触れることが出来ると思い、茶道を勉強し始めました。

■繊細な中に大胆さがある

茶道の所作は、細々していて面倒くさそうだと耳にすることがあります。二畳半や一畳半の小間と呼ばれる茶室があり、そこに、外の世界を一足早く取り入れ季節感を表現しています。その中にも、お客様を招待し一連の流れで茶事を進めていく様子は、たしかにとても細々しているように見えます。繊細な動きの中で、お茶を一服楽しく気持ちよく飲むための一つひとつ必要な動作は、やはり細々としていると思います。

お客様にお茶をお出しする側で、お茶を点ている人においては、全員から見られているため、作法を間違えないように、粗相のないように注意しますし、そのように普段から練習(稽古)をしています。しかし、時には作法の順番を間違えてしまったり、茶碗に抹茶を入れる際こぼしてしまったりと、失敗してしまうことがあります。このような場合、どうすれば良いのか。当初、私は悩んでしまいました。意外でした。順番を間違えた際、「失礼しました」と言って、そのまま先に進めて大丈夫でしたし、抹茶をこぼしてしまった際も「失礼しました」と言って、懐紙でサッと拭く程度で先に進めて大丈夫でした。とても大胆だと感じました。しかし、お茶を知っていくうちに、作法も大切ですが、それ以上にお客様に気持ちよくお茶を一服召し上がっていただけることが、もっと大切であるのだと教わりました。いわゆる「おもてなし」の心です。

■一つひとつ意味のある動き

このように見ると、実は茶道は最終目的として「招いたお客様にいかに気持ちよく茶席を過ごしていただけるか」が重要な

のではないかと思います。お茶時の際、炉に水を入れた釜をかけたあと、懐石料理が供されます。目的として美味しい料理でお客様をもてなすことや、お酒を出すことで、場の空気を和ませることがあります。お湯が沸くまでの時間を効率よく使っていると思います。

■遊び心も大切

昔、古田織部という茶人がいました。織部は千利休の「人と違うことをせよ」という教えを忠実に実行し、大胆かつ自由にお茶を楽しんでいたことから「へうげ(ひょうげ)もの」と呼ばれていました。

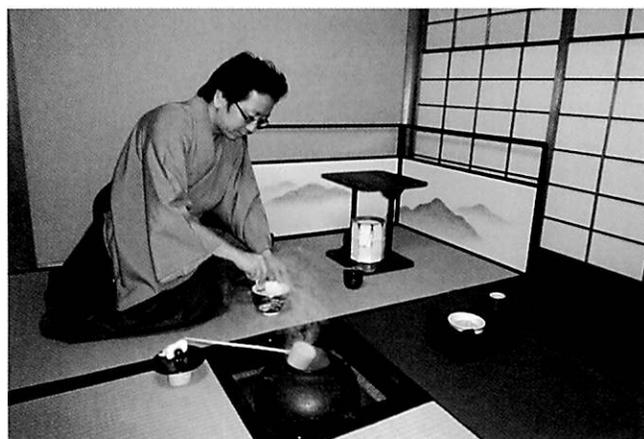
お茶の中に遊び心を取り入れた織部。そこまででは無いですが、私もお茶に関係するものとして遊び心がある「足袋」(サムライ足袋)を開発しました。さすがに、茶席には不向きですが、行き帰りの道中で履けます。



■お茶を続けているのは

お茶の稽古に伺い、床の間の掛け軸や活けられた花を目にすると、その季節に合わせた設えとなっています。まず、ここで、気持ちが日常から解き放たれます。そして、相手を思いやる心としておもてなしがあります。私は、この2つをビジネスにおいても心がけるようにしています。

「リラックス×おもてなしの心」があることで、続けて行けるのだと思います。



各地区会で開催された例会をご紹介します。

【川口地区会1月例会】

経営環境の変化にどう対処するか?

～人、モノ、情報…わが社は経営資源をどのように活かした?～

報告者: 栗原 茂氏 (栗原印刷(株) 代表取締役)
 小山明孝氏 (泰清倉庫(株) 部長)
 中村 茂氏 (㈱マサキ管理サービス 代表取締役)

栗原茂氏(栗原印刷(株)代表取締役)、中村茂氏(㈱マサキ管理サービス代表取締役)、小山明孝氏(泰清倉庫(株)部長)の地区会員三名による「経営環境の変化に伴う対応」について実践報告頂きました。それぞれの経営においての赤裸々な遍歴などを伺い、実態を知り、生の声・本音を聴き、知恵を出し合っただけでなく、まさに同友会ならではの良さを感じられるものでした。



栗原氏は、〈印刷業は不況業種〉との位置付けを乗り越えるべく、様々な工夫と今後の戦略を考えられ、参加者全員にセキュリティを重視した伝票のサンプルを配りながら意見と知恵を求められました。

中村氏は、賃貸を中心とした不動産業を通して、人材育成を考え同友会に入会し、後継者問題、相続対策などの事柄についての活かし方を話されました。現在、世の中がネット社会へと変貌してきている中で自社に於いても取入れ対応されているとのことでした。

小山氏は、倉庫業での苦労と自社の沿革に伴った設備投資と従業員の入れ替わりについて資料をもとに話されました。今後は、個人宅でトランクルームとしての利用や、ネット販売での物品保管先としての利用を開拓し、また、社長は海外(中国)展開へチャレンジと、常に対応し続けるとの内容でした。

変化が激しい現代にどう対応していくか。理論理屈ではわかっていても、実践するのは難しい中、時代のせいにはせず、問題に全力で取り組み続ける三者の強い意志と決意が感じられる素晴らしい報告でした。そういった方々が集い学べる同友会という存在の有難さを改めて実感した例会でありました。(中根幹雄 記)

【西部地区会1月例会】

税理士が斬る! 『良い会社』『良くない会社』

報告者: 岡部素明氏 (岡部税務会計事務所 所長)

今回の例会は、同友会三つの目的のうちの『強い会社をつくらう』に、ピッタリと焦点が絞られた充実した内容でした。報告者の岡部氏からは、強い会社をつくるために最も必

要な条件の一つとして、『経営者の姿勢を正すこと』を実例をあげて力説されました。その一つとして、まずは経営者としての税に対する考え方を問い、企業家は堂々と利潤を追求すると同時に、堂々と納税の義務を



果たす覚悟を求められるとの見解を示しました。「消費税は預かり金である」「納税のための預金の確保の必要性」や、「公私を分ける」などの実例を交えてのお話は、「強い経営者とは決して税を滞納することはない」という言葉に裏付けられました。

さらに後半に入ると、事前に準備されたA社の貸借対照表と損益計算書を示し、「この数字の羅列の中から、A社は1か月間にどんな取引事実があったかを読み解いてみよう」と、参加者から次々に意見を募りました。

「経営者は常に先を読まねばならない。確かな予測・予定を立てるためには、これまでの結果である試算表を読み取る能力を持ち合わせなくてはならない。数字はその目印となるものである」と語ります。岡部氏のこれまでの長い体験を通して、一貫して『社長の姿勢こそが強い会社をつくる源泉である』ということ強く印象付けられました。

(村里泰由 記)

【川越地区会1月例会】

経営理念の浸透で社員の行動が変わる!

～誇りと希望を持てる会社づくり～

報告者: 西本淳弥氏 (㈱アートエンディング 代表取締役)

報告内容は、創業以来インターネットでの集客で業績を伸ばしてきたアートエンディング社が突如インターネットの検索システムの変更により経営危機に陥った。経営危機をどのよう



に乗り切ったのか。社員が一丸となって経営に取り組む姿勢はどのようにつくられていったのか。地域で必要とされる会社になるためにどのような活動を行っているのか。など、西本氏の仕事に対する熱い思いや社員を大切に作る姿などを学ばせていただきました。グループ討論では、「あなたの思いは社員に伝わっていますか?」というテーマで各グループが時間いっぱい討論を続けました。今回の例会では「グループ長の育成」という観点から、2月例会のグループ長候補の方にプレ報告への参加と当日のグループ長補佐をお願いしました。事前にグループ長の依頼を受けることで心構えやグループ長の視点で討論に参加し、討論の進め方を見て学んでもらおうという試みを行いました。

(池田佳世 記)

埼玉中小企業家同友会 2016年度 第6回理事会議事録

《2016年度スローガン》本気の改革で時代の変化を乗り越え切り拓こう

◆日時:2017年2月23日(木)18:30~20:45

◆会場:新都心ビジネス交流プラザ4F

◆司会・議長:小松副代表理事

◆議事録署名者:小林副代表理事

◆議事録作成者:小池事務局長

1. 議事(審議事項・報告承認事項・連絡事項)

・久賀代表理事挨拶

2月16,17日に鹿児島で中同協の全国研が開催され1186名が参加、埼玉同友会からは21名が参加した。中同協の鋤柄会長の挨拶では、人材不足が全国で顕著になってきているが、こんな時こそ今いる社員を大事にし、会社として社員が辞めない体質を作ることが必須になってきていると報告された。

協議事項

1. 第44回定時総会についての検討(提案者:小松副代表理事)

(1)2017年4月15日(土)に新都心ビジネス交流プラザで開催の定時総会の記念講演は、東京同友会の栗田美和子氏(株)クリタエイムテリカ 代表取締役)に決定し、打合せ及びプレ報告は3/17(金)に事務局で実施される。設営のむさし野地区会より役割分担を含め、次回幹事会で討議する旨の報告があった。参加目標は各地区30%以上の参加率を目指し、予定新地区にも呼びかける事とする。

2. 2016年度活動総括・2017年度活動方針について

(提案者:久賀代表理事、木下代表理事)

(1)活動総括:①スローガンでは会員数が6年連続増、新地区会発足の過程で県内に同友会企業づくり運動が広がってきた。②情勢では地区会活動が充実して経営課題解決の例会が開催されている。但し、地区会によっては温度差が見られるので、地区会の枠を超えて交流を進めて元気な地区会から学ぶようにしたい。③青年部、ファミが活性化している。④埼玉同友会の全国大会参加状況表を追加した。等を付加した。

個別課題:①新入会員オリエンテーションの開催地検討や永年会員の活動づくりの検討。②事務局の労働環境の見直し③幹事会、例会の自主運営状況。等を付加した。続いて広報、経営労働、共同求人、障害者雇用推進、仕事づくり、女性経営者クラブ・ファミ、青年部の活動総括があった。

(2)活動方針:①スローガンの後、特別課題として2018年6月開催の女性経営者全国交流会について別枠で表記した。埼玉同友会開催の意義に付いては、実行委員会後に次回以降に報告される。基本方針については①厳しい環境の中、1人でも雇用を増やして行く。②「元気のある地区会に学ぶ」として活発な幹事会や充実した例会づくりを他地区と交流して進める。③会員が増える事の意義を盛り込んだ。等を付加した。

個別課題:①地区会長の全国大会参加促進②19地区会、1200名会員を見据えた事務局づくりを進める。等を付加した。

(3)質疑応答:人材不足から長期的な採用計画を進めるべきだが、何故なのかの要因分析も記載しはどうか。

・各委員会の活動方針については次回以降の理事会で報告。

3. 2017年度組織図、予算案、活動スケジュールについて

(提案者:沼田副代表理事、鈴木副代表理事)

・組織図:事務局に財務担当を新設する事となった。事務局と連携して理事会等に報告したい。役員選挙も順調に進んでいる。次回選挙委員会は3/31に実施予定。

・予算案:次年度1000名会員で試算、基本的には例年と同様の予算案だが2017年度は支出では新地区支援、予備費、基金の積み立て等を見込んでいる。女全交に付いては立替金を計上している。

・活動スケジュール:各行事が地区例会と重ならないように配慮して頂きたい。

4. 2018年埼玉女全交の開催概要(提案者:北川実行委員長)

タイトルは第21回女性経営者全国交流会in彩の国埼玉、主催は中同協で設営は埼玉同友会。後援は内閣府男女共同参画局、埼玉県、さいたま市に依頼予定。

【メインテーマ】 私たちが次の時代を拓く力になる

【サブテーマ】 誰もが輝く社会の創造

【キャッチフレーズ】 シブサワスピリットでつなごう未来へ

日程:2018年6月21日(木)~6月22日(金)、会場は大宮ソニックシティパレスホテル大宮

・リーダー会議、実行委員会で埼玉中小企業家同友会として位置付けを検討して3月以降の理事会で承認をお願いする予定。

・開催1年前になる6月より地区会長、委員長にも実行委員に加わって頂きたい。⇒地区会との連携を密にして実行委員の選出、適材適所の配置を御願いたい。

5. 埼玉同友会大学について(提案者:沼田副代表理事)

・各地同友会大学が開催されているものの、対象や位置づけ、規模は異なっており、名称は同じであっても別種のものとなっている。1/12に千葉同友会の同友会大学を取材。千葉同友会では、現在第7期を迎えている。

・埼玉としての位置づけとしては、経営者を主対象とし「人を生かす経営」につなげるための学びと実践の場と位置づけ、下記の4点を柱に検討している。

- ①経営指針づくりセミナー終了後のフォローアップとレベルアップ
- ②経営(外部環境・内部環境)に関する基礎理論
- ③社員教育の根幹となる人間性を高め、人格形成を目指す内容
- ④地域づくりと中小企業

報告事項

1. 経過報告(新入会員オリエンテーション、社長の学校活用実践セミナー、委員長会議)

①「社長の学校活用・実践セミナー:2/14に経営労働委員会が担当の実践セミナーの第3講がパネルディスカッション形式で開催された。報告者はコーディネーター:都築大介氏 カンパニユラ経営労働研究所 代表(浦和地区会)、パネリスト:金子麻里氏(株)インフォームド・コンセント 代表取締役(むさし野地区会)、原博之氏(株)トーカイメタル 代表取締役(東彩地区会)、吉村浩平氏(株)第一経営相談所 代表取締役(東部地区会)。

②地区会会長会議:2/10に開催。女全交はファミだけではなく埼玉全体で取り組む行事なので理事会等では随時、女全交の経過を報告し、全体で議論しながら気運を高めて頂きたい。実行委員会の組織体制については、一つの部会に同じ地区会メンバーが偏っているところが見受けられる。メンバーの追加や配置等については実行委員会には地区会にも情報共有の配慮をお願いしたい。

③新入会員オリエンテーション:2/20に参加者3名で実施した。これまで実施の地区別参加状況では戸田・蕨地区会が参加率が高くなっている。次回は4/18(火)に開催するので、是非対象者の参加を促進して頂きたい。

2. 組織強化支援室(会員拡大PT、新地区支援PT)より報告(報告:久賀代表理事、沼田副代表理事、鈴木副代表理事、荷田リーダー)

・久賀代表理事:総合的な進捗状況についての報告があった。深谷は6月に30人規模で設立に向けて準備活動を進めている(設立総会予定6/23)、加須も進捗しており、2名ほどの入会もあり今後伸びていく。東松山も地区のイメージが少しずつ出来つつあり、富士見・ふじみ野も後に続いて進んでいく見込み。

・荷田会員拡大PTリーダー:埼玉同友会の各地区会の現状を見ると、期首の会員数に戻ってきている地区があり少しずつ会員数は伸びてきているのが現状。東松山の進捗状況としては2/6に対象地区の経営者と会合を開催して同友会について説明し交流を深めた。また3/8に再度打合せを実施して進展を図っていく。

3. 地区会・委員会報告

①女全交実行委員会:女全交で使用のロゴ、チラシデザインのコンペを実施する。エントリー期間は3/1~3/23で詳しくはdoyuさいたまの封入チラシを見て頂きたい。

②経営労働委員会:2017年度の経営指針セミナーは3/27より申し込みを受ける。2017年度は各地区に経営指針を広く浸透させるため、各地区で2名を先ず優先的に募集してその後、定員に満たない場合は抽選を実施する事になった。申込書には地区会長の推薦を頂くことになった。

③広報委員会:2/16に首長訪問という事でむさし野地区会が新座市長を訪問した。市の現状交流や同友会について1時間ほど面談を実施、この内容についてはdoyuさいたま5月号に掲載予定。今後、年に数度の訪問記事を他市町村も掲載したいので、各地区会には広報委員に申し出て頂きたい。

4. その他

①2/16に知事公館にて先に理事会で承認となった署名非正規雇用問題、働き方改革(職場環境の整備や長時間労働の是正等)推進の為の非正規雇用対策及び働き方改革に関する共同宣言の署名式に木下代表理事が参加して署名をした。

②2/16,17開催の中小企業問題全国研究集会in鹿児島に参加した中から浦和地区会の三角会長、埼玉地区会の白石氏、小松副代表理事より報告があった。

③4月より埼玉同友会で実地研修を予定している中同協・富永拓馬事務局員より自己紹介があった。

新たな辞書の1ページ 新入会員紹介 (2/1~3/1)



小松和人
 (株)おもちゃのこまーむ
 東彩地区会

木製玩具の製造と販売



大塚 悟
 サトルファーム
 北部地区会

野菜の生産と加工品の製造・販売



須田晃弘
 (有)コストリカ
 むさし野地区会

居酒屋



長島邦明
 フェニックストレード(株)
 戸田・蕨地区会

不用品の出張買取



山田和豊
 ナチコンピュータサービス(株)
 埼玉地区会

コンピュータシステム開発全般



黒川淑広 ゆいぽる
 住宅リフォーム 結丸
 むさし野地区会

住宅リフォーム

同友会日誌 2月1日~28日

- 1日(水) むさし野幹事会、西部幹事会、浦和幹事会、埼玉地区会、中部幹事会
- 2日(木) 正副代表理事会議、東部幹事会、戸田・蕨幹事会
- 6日(月) 東彩幹事会
- 7日(火) 共同求人参加者会議、川越幹事会、川口幹事会、大宮東幹事会、北部幹事会、大宮南幹事会
- 8日(水) 企業と特別支援学校による「実習受入促進交流会」【障害者雇用推進委員会】、議案検討プロジェクト会議、広報委員会
- 9日(木) 社員教育委員会、経営労働委員会、大宮中央幹事会
- 10日(金) 臨時仕事づくり委員会、第3回地区会長会議
- 13日(月) 障害者雇用推進委員会、さくら幹事会、ファミミーティング
- 14日(火) 「社長の学校」活用・実践セミナー第3講、経営労働委員会オープンセミナー、川口例会
- 15日(水) 北部&伊勢崎支部合同例会、東部例会、浦和例会、むさし野例会
- 16日(金) 戸田・蕨例会
- 20日(月) 青年部臨時ミーティング、新入会員オリエンテーション、さくら例会、大宮ブロック合同例会、東彩例会
- 21日(火) 西部例会、川越例会、埼玉・中部合同例会、深谷幹事会
- 23日(木) 第6回理事会
- 24日(金) 仕事づくり委員会、大宮ブロック会議
- 25日(土) むさし野例会
- 27日(月) 政策問題プロジェクト会議、ファミオープン例会、青年部ミーティング
- 28日(火) 首都圏大学との就職問題懇談会【共同求人】、青年部例会、社員教育委員会

同友会ポスター作成中!

「DOYOUさいたま」2016年12月号で告知した「同友会ポスター」デザインコンペ。広報委員会にて採用案が決定し、4月の定時総会で参加者に1部ずつポスター配布予定です。ぜひ同友会の周知にご活用ください。

会員information

《住所変更》

- 埼玉地区会 社会保険労務士まつもと事務所
松本陽子会員
〒346-0014 久喜市吉羽1-7-5-202
- 東部地区会 司法書士法人アストリーガル 石川禎会員
〒343-0813 越谷市越ヶ谷1-7-9ディパーチェ 3F

《役職変更》

- 東部地区会 (株)エフ広芸 藤井忠行会員
代表取締役会長へ
- 大宮南地区会 (株)ユアーズ・コーポレーション
石井亜佳理会員
取締役副会長へ

《社名・役職変更》

ティーアンドエス(有) 小澤豊会員
代表取締役へ

《住所・FAX変更》

- 西部地区会 (株)美杉観光バス 吉田典弘会員
〒357-0041 飯能市美杉台6-1-15
FAX:042-971-5759

◆ 訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

- 浦和地区会 持館秀一郎会員のご尊父が逝去されました。
- 東部地区会 鈴木康三郎会員のご尊父が逝去されました。

会員数

2017年3月7日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川 口	46	大 宮 南	87	埼 葛	69
戸 田 ・ 蕨	54	西 部	48	北 部	40
浦 和	86	むさし野	95	さくら	80
大 宮 東	42	東 部	139	川 越	88
大宮中央	39	中 部	55	東 彩	47
計					1015

編集後記

吉田松陰は、人生には長短に関わらず四季があると留魂録に遺している。50代も終盤に差し掛かり、これは実際の人生だけではなく、〇〇人生と表現できる人の営みすべてに言えることなのではないかと思うようになった。

春夏の喜びが秋の味わいに比べれば浅薄であり、冬に己は朽ちようとも春にまた誰かが新たな営みを始めると信じられれば、移ろいを恐れいつまでも拒む姿はむしろ滑稽に思えることだろう。17年間の同友会人生における今この季節、それを意識し受け入れられていることに清々しさを感じている。

(埼玉地区会広報委員 大塚治 記)

木が香る家、社名にこめた自然と環境への想い



今回は、同友会活動はもちろん、地元 蓮田市の活性化のために力を注ぐ(株)木香舎 代表取締役 福原浩氏の事務所を訪ね、社名の由来や現在の取り組みについてお話をうかがいました。

【起業に至るまでの経緯について】

最初に就職したのは、内装工事専門の会社で、福原氏は主にクロスを貼る仕事を担当していました。会社はいわば職人集団で、社長(親方)が手取り足取りで教えてくれる訳ではありません。「仕事は目で盗め、自分で覚えろ」という風潮の中、必至に仕事を覚えた事が今の自分に繋がっているのだと当時をふりかえります。

しかし数年が経ち、社長の傲慢な言動に納得がいかず、退社を決意。毎月10万円ずつ貯金をして120万円貯まった時点で会社を辞め、25歳という若さで独立しました。

【社名の由来について】

独立後は個人事業主から始め、平成8年に(有)福原建装を立ち上げ法人化します。しかし日々多忙な業務をこなす中、42歳でがんを患う経験をします。

当時の建築資材には、ホルムアルデヒドなど人体に悪影響がある化学物質が沢山含まれていました。数種類の化学物質はその後規制されたものの、「自分が病気を患ったのも、長年に亘りそういう現場に携わっていた事が原因のひとつだったかもしれない」と語ります。

そして病を経験したことを通して、できるだけ自然素材を使った家を自分の手で作りたいとの思いが芽生え、建築士の資格を取得したそうです。写真で拝見したのですが、福原氏が最初に



▲環境イベントが開催される地元の古民家

建てた家が奥様のご実家で、自然の木材や漆喰をふんだんに使い、木の香りが今にも漂ってくるような素晴らしい建物でした。お子さんたちもこの家に行くと「ああ、いいにおいがする」といつも言うそうで、現在の社名である(株)木香舎は福原氏のそんな思いが詰まっています。

また、福原氏は蓮田市の観光協会の一員として地域活性化の活動に取り組んでいます。昨年は、蓮田市で撮影された映画の上映会のPR活動を行いました。かねてより蓮田市にはこれと言った観光地がないことが課題としてありましたが、この映画は蓮田市の名所や商店会などを舞台にしています。蓮田の風景の中で、女子高生の成長と別れをテーマにしたとても叙情的な映画だそうです。



【地球環境部会エコストーブ作り体験】

福原氏はエネルギーシフトに大きな関心を寄せており、仕事づくり委員会地球環境部会の一員としても活動されています。地球環境部会では秋に、「エコストーブ作り体験」を計画しているそうです。エコストーブは少しの小枝を燃料として煮炊きができ、災害時には大変便利なものとのこと。

ストーブ作りは蓮田市観光協会で借り上げた、地元にある古民家で開催予定です



▲埼玉の木づかい運動応援団会員証

この古民家は、福原氏の発案で、改修・再生して様々なイベントの利用に向けて展開して行く構想とのこと。地球環境部会では秋のイベント開催へ向けて入念に準備を進めています。時期になったら案内が発信されますので、再生された古民家での「エコストーブ作り体験」に、みなさまぜひ参加してみたいはいかがでしょうか?

地域の活性化だけでなく、地区会では、なかまづくり委員長として地区会の活性化に奮闘する福原氏。今後ますますの活躍が期待されています。

(中部地区会広報委員 池田豊子 記)



福原 浩

ふくはら ひろし

(株)木香舎 代表取締役
中部地区会
埼玉県蓮田市関山1-4-20
TEL:048-768-5199
FAX:048-768-5709
www.kikousya.com/

埼玉同友会
広報委員

委員長 福山行雄	鈴木光義 後藤天美	辻 繁幸 三友哲哉 安藤洋泰	大宮南 西 部	加藤早苗 上坂 理 吉野雅一	宇野碧留 矢澤敦臣	さくら 池田恵津子 小松和弘	制作担当 栢込博久
副委員長 酒井 啓 小林吉文	委 員 川 口 高倉光俊 戸田・藤 石井孝徳	大宮東 安形智昭 柴田大智	むさし野 東 部	菅沼 剛 菊永良枝 鈴木一朗	中 部 池田豊子 大塚 治 今村達郎	川 越 小田 明	印刷・製本 加藤早苗
				北 部 東 稔章	事務局 古川佳子		